

序

当研究所は、昭和50年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部・実践記録の部・翻訳の部に分けて原稿募集をいたしましたところ、各校の先生方から14編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、14編のうち2編が論説、11編が実践記録、1編が翻訳となっています。論説は、「児童指導」・「特殊教育」とも教育とは何かを問いかけながら教育の本質に迫ろうとしています。哲学の貧困が叫ばれている今日、教育の本質について考察することは重要なことだと思われまゝ。実践記録の中では御厨小学校が県南社会科研究を機会に全校をあげてこの問題に取り組んできました。小俣小学校は、早くから、チーム・ティーチングの実施に踏み切り、継続研究を進めています。さらに、三重小学校は市教委指定の児童指導研究学校として、すべての先生が事例をもって2年間の実践を進めてきました。

市教委主催の教育現代化研修会及び当研究所の研究員のテーマとして創造性学習意欲・自主性・個別化と集団化・能力差に応じた指導等を取り上げて研修や研究を進めてきましたが、第二中学校のように現職教育等を通して、この中のテーマである「学習意欲」の研究に取り組んでいる学校もあります。

以上のように、足利の教育研究は、グループ研究がかなり多くなっているのではないかと推察されます。個人研究としては、理科・算数・体育・家庭・英語科とそれぞれユニークな研究をされているので、貴重な資料になると思います。翻訳は年少児の問題行動を扱っているので、小学校低学年担当の先生方には特に参考になると思います。このように、各先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、各学校における日々の教育実践の中に十分生かされ、本市の教育振興発展に寄与されることを期待いたします。

終わりに、論文原稿をお寄せくださった先生方をはじめ関係者の方々に厚くお礼申し上げますとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和51年3月

足利市立教育研究所長 高橋 黄 未